

及樹皮二十八萬四千五百圓(〇割九分九厘) 第一萬八千六百七十八圓(〇割七分七厘) 松茸及椎茸三千八百八圓(〇割一分一厘) 其他五千八百三十九圓(〇割二分二厘)で、之を前年に比べる

石材土石

十六圓(〇割一分三厘) 樹實及樹皮に於て六十八圓(〇割二毛) 其他四百五十八圓(〇割七分三厘)を減じた。

石材土石の總價額は六十七萬四千五百二圓で内花崗岩四十五萬八千二百四十五圓(六割七分九厘) 砂利十三萬三千六百三十七圓(一割九分八厘) 大理石三萬八千六百圓(〇割五分七厘) 粘土一萬七千五百一圓(〇割二分六厘) 其他二萬

六千五百十九圓(〇割四分)、前年に比し總價額に於て二萬五千八百四十三圓(〇割四分)を増加し内花崗岩五千七百五十一圓(〇割一分三厘) 砂利八千八百三十七圓(〇割七分一厘) 大理石四千九百圓(一割四分五厘) 粘土三千四百三圓(二割四分一厘) 其他二千九百五十二圓(一割二分五厘)の孰れも増加を示した。

關東一府六縣 統計事務協會議

去る四月二十四日より内閣統計局に於て開催された地方統計課長會議を機會として關東一府六縣の統計課長會合の上、統計事務刷新向上を圖るため種々協議をなし、地理的事情を等しくせる參集府縣が相互提携して協調するの必要を痛感し、關東區府縣統計事務協會議を設立することに申合せその初回を栃木縣に於て開催することに決定した、其の申合に依る規約大綱は次の通である

一、目的 地理的事情を等しくせる府縣協調して統計事務刷新向上の範を示し、團結して統計施設改善充整の策を獻じ、併せて統計事務關係者相互の和親を圖らんとす

二、區域 關東地方各府縣(東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城、山梨、静岡)

三、名稱 關東區府縣統計事務協會議

四、會員 關東區府縣統計事務關係者

五、會合 毎年一回二日間とし會合地(府縣)の順位は協議又は抽籤に依り決定す、但し特別の事由あるときは會合度數の増加又は會合日數の伸縮をなすことを得

六、經費 開催地負擔

七、役員 當該年度會合地(府縣)の總務部長、又は統計課長を司會者に推戴し、統計課長又は統計主任を以て當番幹事とす

八、附記 本規約は昭和十年度より實施す



短歌

丹 四郎選

題 『青田』 『夏雜詠』

(賞)

見巡れる青田の溝のせせらぎのさやにきこえて夕ひそかなり
いさゝかの晝の休みに子らをゐて庭の實梅を吾は落すなり

秀 逸 行方、武田 境 草 風
風呂出でて裸のままに水足らぬ門の青田の堰を見廻ら

除草器の手を休めつゝ東の間を憩ふ直ち青田涼風

稲敷の利根の岸邊を行く／＼と青田はつきす大空のもと
行方、立花 今泉 安之助

豊なる年のしるしも見ゆるかなさとよりさととつづく青田に
稻敷、太田 五十嵐 康尊

病後の父の手を取りたくれの青田の風に吹かれ來にけり
鹿島、中野 大川 貞一

見るかぎりうゑわたしたる千町田のなべて緑になりにけるかな

田草取り五人六人うち連れて戻るゆふべを水鶏啼くなり
あさまだき池のほとりにたゞのぼ音おもしろく蓮の花咲く

川へののの青葉に止り居る蜻蛉のかげの水に映つれる
夏作の調査に來ればわがノート汗のじみて字々へ分らず

朝露に濡るゝ研録をうち振るひ馬草刈るなり小唄まじりに
夕日照る青田の中を馬曳きて戻る人の鼻唄うたふ

田植時の忙しさもいまは過ぎにけり青田を渡る風眺めつゝ
梅雨つきて日癖の南風強ければ店硝子戸を鎖せる日のつつく

行方、手賀 會根 健 而
多賀、南中郷 瀧 千 俣
多賀 綠川 荷舟
久慈、小里 沼田 松元
鹿島、沼前 川 澄 春 暢
稻敷、奥野 貝塚 苔人
北相馬、大野 海老原 松光

次回 課題『初秋雜詠』 十首以内
宛名 茨城縣廳内統計協會
締切 八月二十日



前田 猶春選

題『金魚』『夏木立』

窓さきや風鈴の下の金魚玉 北相馬郡東文間 堀越 宵雪
 藻をよけて金魚の群の泳ぎけり 稲敷郡奥野村 吉田 逸桑
 しとくと雨降る中や金魚浮く 北相馬郡大野村 貝塚 苔人
 夏木立犬をつなぎて憩ひけり 稲敷郡太田村 五十嵐 康尊
 舞れて夏の並木のひそかなる 那珂郡藤郷村 高野 芳水
 猫のかけうつりて沈む金魚かな 同 青木 斗南
 金魚玉篠つく雨となりにけり 行方郡武田村 鳥次 ゆた香
 灯の下に金魚をりく身をかへす 同人

洲の鼻のばらく松も夏けしき 同人
 夏の木に笠をかけたる遍路かな 行方郡手賀村 曾根 健而
 水口に金魚あつまる雨もよひ 那珂郡野口村 西村 小雨
 汽車の煙流れて濃ゆき夏木かな 同 藤郷村 高部 樂風
 午ちかき診察室や 金魚玉 鹿島郡中野村 大川 貞
 深山路や驚なきて夏木立 同 人
 噴水をしかけし池の金魚かな 稲敷郡奥野村 海老原 松光
 旅人の帽子かけたたり夏木立 那珂郡柳河村 木内 午藏
 玉と散る四度の水勢や夏木立 全 木崎村 小泉 古山
 夏木立馬をいたはる水邊かな 全 大宮町 和田 左門
 水替へて金魚大きく動きけり 同人

霽れや青々として夏木立 多賀郡南中郷村 緑川 欣一郎
 ゆらくと浮きては沈む金魚かな 行方郡武田村 境 勇
 かさくと風夕つきぬ夏木立 久慈郡小里村 沼田 松元
 夕浪に船ゆられ居て夏木立 筑波郡大穂村 柳町 涼風
 軒さきに雨よけて居り金魚賣 鹿島郡沼前村 川澄 春暢
 人ゆかぬ庚申塚や夏木立 北相馬郡菅生村 倉持 保光
 夏木立笠を忘れて人去りぬ 行方郡立花村 今泉 安之助
 河岸の家夏木に船をつなぎけり 鹿島郡豊郷村 石津 思水

秀逸(賞)

會津にあそぶ 行方郡武田村小貫 塙 草風
 ふるみちや飯盛山の夏木立

次號課題『蟬』『青嵐』

締切 八月二十日 用紙 半紙二ツ折十句以内
 宛名 茨城縣廳内統計協會宛 賞 秀逸に粗賞を呈す



柳川

山中 緋郎選

題『講習』

講習が終へて嬉しさ顔に出し 那珂郡芳野村 綿引 よしを
 講習のみんな榮える事ばかり 西茨城郡北川根村 荻沼 白鷗
 講習を受けた甲斐あり米が穫れ 那珂郡柳河村 木内 紅楓
 講習へ去年の友に又出逢ひ 東京市神田區 加部 時春
 講師より老けた一人が手を舉げる 大阪市西成區 葵 徳三
 講習へ講師の癖を真似てゐる 那珂郡藤郷村 高野 芳水
 親と子が一所に並ぶ講習會 神奈川 小澤 茂坊
 講習へちと派手に來る未亡人 金澤市 奥田 綠水

講習へ半分義理の 額で 會ひ 那珂郡盛郷村 青木斗南
 講習へさほる氣でゐる 後ろに居 東京市本郷區 三條苦樂人
 講習は理窟だけだと聞いている 大阪府西淀川區 左 日の丸
 講習へ留守居の女中のんびり居 京都府 黄金町 小島大口坊
 講習の鼻汗にある 眞劍味 東京市 王子區 村上亘亨
 お隣りと誘ひ合つてく 講習所 那珂郡盛郷村 岡山北星
 講習の料理 先生まづく 喰ひ 北相馬郡文村 狸丸ピョン助
 講習を受けて仕事に念が入り 稲敷郡奥野村 吉田逸桑
 上着みなとれと講師は粹も言ひ 行方郡武田村 境 勇
 講習の餘暇へ海水浴 もやり 名古屋市 西區 青野紫翠
 スキヤー 實地指導も受けてみる

講習を受けて自信が強くなり 稲敷郡太田村 五十嵐康尊
 講習の質疑同じ人ばかり 稲敷郡奥野村 海老原松光
 脱線の講師へ拍手 まだ續き 行方郡武田村 境 草風
 水泳の講習みんな生白い 長野市 外架町 小林琴の舎
 講習へ話の樂な講師もて 神戸市 須磨區 須磨浦人
 十 秀
 講習の訓示へしばし 緊張し 北相馬郡東文間 堀越宵雪
 講習へやつぱり出来る飲仲間 東京市 神田區 加部言治
 講習へ講師の若さ侮れず 大阪市 北區 北島仁昭
 講習へ希望同じな 友に逢ひ 東京市 荒川區 木田蛙の子
 講習の證書總代 羨やまれ 鹿島郡沼前村 川澄春暢

講習へ一人ほつちの里心 那珂郡木崎村 小泉古山
 講習へ花を氣にして馬車に揺れ 東京市 王子區 日野櫻笑子
 林間の講習とても忘れかね 鹿島郡豊郷村 石津思水
 講習が終りミシンをねだられる 東京市 神田區 青柳秀男
 講習は梅雨にそなへた母の會 東京市 荒川區 山川散戀華

人(賞) 東京市芝區 本堂雪繪
 講習へ片親の子の無欠席
 地(賞) 名古屋市南區 佐々木鳳石
 講習を終へたその夜の行き所
 天(賞) 神戸市 須磨區 草薙眞一
 講習の時間 短くペンを走せ

五 客

講習の通りに煮える 臺所 横濱市 磯子區 平井痴翁
 講習を受けてつからの腕の冴え 行方郡手賀村 會根健而
 講習の戻り 鰹を提げて来る 行方郡武田村 鳥次とり坊
 編棒へ講習慣れのみめが出来 大阪市 此花區 加茂孟浪坊
 講習へ来てテキストを買はせられ 京都市 下京區 宇の六相子

選 者 吟

速記者へ若い講師の氣が疲れ
 あぶら蟬聽講生の氣がだるい

次號 課題『國勢調査』一人五句以内

用紙 葉書又は同型のもの
 締切 八月二十日
 宛名 茨城縣廳内 茨城縣統計協會
 賞 三才粗賞を呈す

編輯後記

編輯を終つて、この後記を書く時になると、何時も同じやうな、何かしら寂しさに似たる物足らなきを感じる、何故か、何に原因するかは、自分にはよくわかるのだ。この上とも大いに勉強し、大いに努力して自信ある雑誌を皆様にお目にかけることとしませう。

本號は縣外視察記や、模範町村訪問記、秋の調べの注意、國勢調査などに、大部スペースをとつたので、折角讀者諸君から送られた感想や論文等、次號に譲つたのが澤山あります、御諒承を願ひます。

次號——九月號を皆様のお手許に差上げる頃には、秋季調査は本舞臺にはいらつとすし、國勢調査は間近くなるし、統計關係者が、眞の腕前を見せるのは此時です、共々一段の力を注いで有終の美果を収むるやう、今から細心の注意と準備をととの

へて、かゝることになつたしませう。

梅雨あけで、暑さはいよいよ本格式になることとせう、山よし、海よし、近頃流行のサンド、スキー、いはゆる砂滑りなども、また結構でございませうが、我が親愛なる讀者諸君は、多くは農人でありませう、そして諸君は諸君のみが誇りうる、この大自然の景物に寝ね、景物に起き、景物に生きてゐるのです、山、海、砂、そんな個々の單純な風物を超越して。——富岡如夢——

茨城統計と 廣告の效果

「茨城統計」は縣下三百八十ヶ町村及び各市町村の統計調査員三千九百名は勿論縣下各種団体、會社、工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の效果偉大なるものがあると信じます。

□本誌廣告料金は左の通りです。

特別（一頁）表紙裏表）金貳拾圓
（半頁）同）金拾五圓
普通（一頁）金拾圓
（半頁）金五圓
（四分ノ一）金參圓

□同一廣告を引續き二回以上の上ときは一割五分、五回以上の上ときは二割の割引をします

□廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます

□廣告料は前納に願ひます

茨城縣廳
茨城縣統計協會

昭和十年七月十三日印刷
昭和十年七月十五日發行
（隔月一回十五日發行）

一部金拾圓
水戸市北三ノ丸茨城縣廳
茨城縣統計協會内

發行兼編輯人 川崎末吉
水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
印刷人 柴博
水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
印刷所 柴印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内
發行所 茨城縣統計協會